

デッキND設計・施工上のご注意

■ 設計上のご注意

1.寸法

- ・根太40×70を使う場合、大引きの支持脚ピッチは900mm以下としてください。
- ・根太の取付けピッチは、500mm以下としてください。（デッキ面材の支持間距離430mm以下）弊社標準根太以外を使用の場合で、受け面幅が70mm以下になる場合は根太の内寸法が430mm以下になるように根太取り付けピッチを調整してください。
- ・根太40×70の張り出しは東足芯から最大180mmにしてください。
- ・デッキ面材の張り出しは原則として根太芯(弊社標準根太使用時)から最大85mm(持ち出しは50mm)までにしてください。これを超える場合は、御相談ください。
- ・壁面との隙間は10mm以上、建具との隙間は5mm程度確保してください。
- ・デッキ面材の目地は長手ジョイント部5mm、幅方向目地4mmとしてください。材の性質上、環境や条件により伸縮しようとして目地ズレが生じる場合があります。その場合は、小口からデッキ面材を押すなどして再調整を行ってください。

納まり図作成上の注意

- ・東足・大引きのピッチ

東足・大引きのピッチは900mmですが、根太40×70の長さが900mmの倍数の2700mmですので、貼り始め側の東足・大引きと2本目の東足・大引きのピッチは900mm以下となります。2本目以降の東足・大引きピッチは900mmとしてください。こうすることで、根太材のジョイント部が東足・大引きの上に来ます。

- ・根太ピッチ

根太ピッチも同様に考えます。面材の長さが500mmの倍数の2000mmですので、貼り始めの根太と2本目の根太のピッチは500mm以下となります。2本目の根太の位置が面材端部から500mmの位置にくるようにして、それ以降は500mmピッチで根太を配すると、面材のジョイント部が根太の上に来ます。

2.荷重

- ・デッキNDの標準システムとしての耐荷重は最大500kg/m²です。
- ・本製品は歩行用です。車などが通行する場所に使用しないでください。
- ・デッキNDの自重はおよそ25kg/m²です。

3.設置場所

- ・デッキに使用している鋼製根太が腐食することがありますので、腐食性を有する温泉では使用しないでください。
- ・デッキ表面は太陽光で温度が上がり、素足で歩行するとやけどする恐れがあります。
- ・本製品は可燃物ですので、熱風の吹き出し口、火源のそばに設置しないでください。
- ・デッキNDの飛散防止のために適切な飛散防止策を講じてください。特に屋上やベランダなど、風の強い場所への設置時にご注意ください。
- ・デッキ取り付け部床下の排水が不十分ですと、湿気でデッキが反ることがありますので、排水が滞ることがないように床下の水勾配を取ってください。
- ・砂場等の近くに設置する場合、床下への砂の堆積や、目地に砂が詰まることで、床下が湿潤状態になると、デッキが反りあがる場合があります。デッキ目地や床下の定期的な清掃を行える様、点検口を設ける等してください。
- ・デッキ表面は吸水性が少なく、デッキ面材端部の形状と水の表面張力の影響から雨水が乾きにくいことがあります。特に日当たりが悪い場所ですと雨水が乾きにくいので、設計でデッキに水勾配を設けるか、使用者にモップなどで水を拭き取るが必要になることをお伝えください。

4.その他

- ・人工木材は材質として含まれるプラスチックの性質上、静電気を帯電しやすいため、帯電抑制タイプは、帯電防止剤などを添加し、従来品に比べ帯電しにくくしております。但し、それでも、施工場所の環境や歩行の仕方、歩行者の個人差などで、帯電した静電気により歩行者が不快感を持つ場合があります。予めご了承ください。
- ・プラスチックと木粉を主原料としている為、周囲の温度変化・湿気等により膨張・収縮が発生します。発生を出来るだけ防ぐために、適正な目地の確保と目地への砂、ゴミ、落葉等の詰まりが無いようにしてください。
- ・ケミカルアンカーE330の接着強度はM12寸切りボルト埋め込み30mmで1000kgです。(コンクリートのコーン破壊強度)
- ・NDポストの接着強度は、200kg/個です。
- ・デッキNDは着色された表層と基材層の2層で構成されています。基材層はリサイクル材も使用していますので、色のばらつきがありますが、性能に影響はありません。
- ・デッキ材をコンクリート床に全面接着で貼り付けることはお避け下さい。
- ・デッキNDは自己消火性を有していますが、建築基準法でいう不燃、準不燃、難燃材としての認定、性能は有していません。
- ・デッキのコインが落ちにくい構造は、従来品に比べて、コインが落ちにくい製品設計をしていますが、コインが絶対に落ちないことを保証するものではありません。
- ・デッキの施工された環境によっては、カビや藻などが生えることがあります。
- ・カタログの印刷の特性上、実際の商品の色と異なることがありますので、色見本等でご確認ください。また、天然の木材を原料に使用しているため、原料の色調によりロット毎の製品において、多少色が異なることがあります。

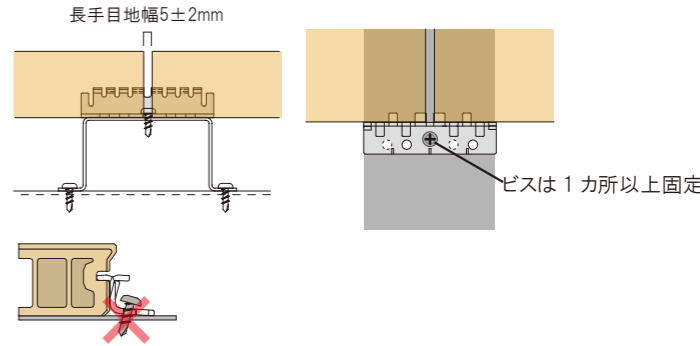
■ 施工上のご注意

- ・デッキ面材は木工用の鋸で切断できますが、通常の木材に比べ硬めなので、超硬チップ付きの鋸刃をご使用いただくことをお勧めします。
- ・デッキ面材は木材ではないため、釘やビスは効きません。
- ・根太材の切断時の金属粉はもらい錆びの原因になりますので、床に残らないよう清掃してください。
- ・指定以外の根太、接着剤、部材を使用しないでください。十分な性能が出ないことがあります。
- ・アンカー用エポキシ接着剤E330の施工温度は5～30℃とし、コンクリート穿孔穴の切削粉を取り除き、床が乾いた状態で使用してください。また、2液の混合比率を守り、混合を適切に行なわないと十分な強度が出ないことがあります。

●押え金具 W の取付

固定押え金具Wで固定する場合、1箇所以上固定してください。金具とデッキ目地の位置は、右図のように金具のツメが2個ずつかかるように取り付けてください。ツメの掛かりが少ないと端部の反りなどにつながります。

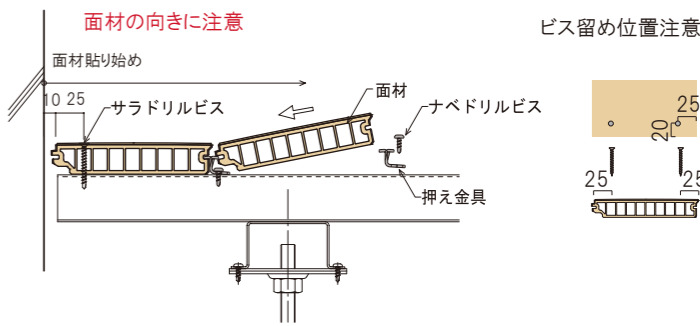
- 長手目地幅5±2mm
- ビスは1カ所以上
- デッキ面材の向きに注意
- ビス留め位置注意
- デッキ面材貼り始め



- ・押え金具を留めるビスを斜めに打ち込まないでください。ビスをしめこむことができず、デッキ面材の浮きにつながることがあります。

●デッキ面材の取付

- ① デッキ面材の凹みのある方を貼り始め側にセットします。
- ② サラドリリングタッピンビス 5×45 を側面端部から25mm、切断端部から20mm以上離れた位置で留めます。この時、デッキ面材に下穴を開け、座彫りしてから留めてください。座彫り深さはビス頭とデッキ面材の面が面一になる程度で深くなりすぎないようにしてください。下穴を開けずに直接ビス留めすると面材が割れる場合があります。また、デッキ面材は中空ですので、木材のように強くビスで締めつけると、ビス締めつけ部周りにクラックが入ったり、割れてしまうことがありますので、強く締め付け過ぎないように注意して作業してください。
- ③ 専用押え金具をナベドリリングタッピンビス 5×16 で留めます。
- ④ 次のデッキ面材を右図のように斜めに押え金具の爪に差し込みながらセットします。



●製品の保管

- ・製品を保管する場合は、水平な場所に平置きし、高温、高湿での保管を避け、雨や日光が直接当たらないように養生シートなどで覆ってください。
- ・デッキ面材側面に強い太陽光が片側側面だけにあたり、温度が上昇すると、製品の曲がりや反りが発生することがありますので、施工直前まで、なるべく直射日光が当たらないようにしてください。
- ・湿度の影響によりL寸が変化するため、梱包シートはなるべく、施工直前まで外さないでください。

⚠ 使用上のご注意

- 製品に火気を近づけないでください。燃えたり、変形したりする恐れがあります。
- シンナーを使用しないでください。製品が溶解することがあります。
- 強い力でたたいたり、重いものを落としたりしないでください。製品が折損したり、陥没したりすることがあります。
- 薄手の靴下やストッキングで直接歩行すると、ストッキング等が破れることがあります。
- 雨などで表面が濡れると、滑りやすくなります。
- 表面が汚れた場合は、やわらかいスポンジなどを用いて中性洗剤で洗浄してください。
- デッキの上をシートなどで覆うと、床下が乾きにくくなり、反りなどの原因となることがあります。
- 雨の吹き込む軒先に施工されたデッキの場合、雨水の境界に雨シミができることがあります。これは、製品に含まれる木粉中の成分が雨水に溶出してできるもので、有害なものではありません。どうしても、気になる場合は、水で薄めた中性洗剤を散布し、雨シミを浮かび上がらせたのち、亀の子タワシのような目の細かいブラシを用いて軽くこすり、洗剤を水で洗い流せばきれいになります。
- 夏場の日中には、デッキ表面が高温になることがありますので、裸足での歩行はお避け下さい。特に小さなお子様はご注意ください。
- 太陽光が各種レンズ効果を持つもの(曲面ガラス、透明なサンダル、水の入ったペットボトル、水槽など)を置いたりすると、集光した光で、床板が高温になりデッキ面材表面に膨れが発生することがありますので避けてください。
- 床下が湿潤状態になると、デッキが反りやすくなりますので、デッキ目地や床下は定期的に清掃をおこなってください。